

実によって見分ける

マタイの福音書 7章 15-23 節

はじめに

今日は、イエス様が山の上で群衆と弟子たちに語られた説教、「山上の説教」からお話します。イエス様は今日の聖書箇所で、「**偽預言者たちに用心しなさい**」と言われます。

1. 偽預言者とは

預言者は、旧約聖書の時代のイスラエル民の中にいましたし、新約聖書の時代の初代教会の中にもいました。預言者がいた時代にはいつも、偽預言者もいました。

偽預言者の特徴は、第一に、世の終わりに大勢現れて、多くの人を惑わすことです（マタイ 24：11）。偽預言者は、聖書が書かれた時代だけでなく、現代においても現れるということが分かります。その意味で、今日の聖書箇所は、私たちと決して無関係ではありません。

偽預言者の第二の特徴は、大きなしるしや不思議を行うということです（マタイ 24：24）。しるしや不思議というのは、奇跡のことでしょう。奇跡は、イエス様や使徒たちだけが行なえるものではありません。偽預言者も大きな奇跡を行うことができるのです。

偽預言者の第三の特徴は、15 節にあるように、「**羊の衣を着て**」、私たちの所に来るが、「**内側は狼**」だということです。「羊」というのは、神様の民、つまりクリスチャンのことです。偽預言者が「羊の衣を着て」私たちの所に来るというのは、まるでクリスチャンかのように私たちの所に来るとのことです。外見や言葉遣いや行いでは、クリスチャンと見分けがつかないのです。見かけはクリスチャンそのものなのです。

では、その衣の内側はどうでしょうか。それは「**貪欲な狼**」なのです。「貪欲」と訳されている言葉は、「強奪」「強盗」「詐欺師」という意味の言葉です。彼らは、人を騙して奪い取る者たちなのです。狼は、羊の群れを常に狙っています。そして羊を奪い取り、群れを散らし、荒らそうとしているのです（ヨハネ 10：12、使徒 20：29）。では偽預言者は、誰から羊を奪おうとしているのでしょうか。それは、他の教会から羊であるクリスチャンを奪うこともあるかもしれません。しかしもっと根本的には、彼らは、イエス様から羊を奪おうとするのです。イエス様は、「**わたしは良い牧者です**」（ヨハネ 10：11、14）と言われ、使徒ペテロに、「**わたしの羊を飼いなさい**」（ヨハネ 20：17）と言われました。すべてのクリスチャンは、イエス様の羊です。そのイエス様の羊を奪い、自分の羊にしようとするのが偽預言者なのです。

ペテロは、Ⅱペテロ 2：1 でこう言っています。「**御民の中には偽預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも偽教師が現れます**」。以前は、偽預言者がいたように、世の終わりや現代には、偽教師が現れるのです。偽教師とは、偽牧師のことでしょう。以前は偽預言者と

呼ばれていた者たちが、世の終わりや現代においては、偽教師や偽牧師となって現れてくるのです。そして教会を散らしたり、荒らしたりして、イエス様の羊を奪い、自分たちの羊にしようとするのです。彼らは、羊たちがイエス様を崇めるようにするのではなく、自分たちを崇めるように導いていくのです。こうして彼らは、羊たちの心をイエス様から奪っていくのです。信徒の心をイエス様に向けさせようとするのではなく、牧師に向けさせようとする、それが偽預言者・偽牧師の姿ではないでしょうか。

羊の衣をかぶった狼、それが偽預言者や偽牧師です。一見、見分けが付きません。彼らは、イエス様や使徒たちが行なったようなこともするのです。普通の牧師のように見えるのです。しかし実際は「貪欲」で、人々の心をイエス様から奪い、人々の心を自分に向けさせようとするのです。そしてイエス様が受けるべき栄光を、自分のものにしようとするのです。イエス様は、世の終わりには、そのような偽預言者や偽牧師が大勢現れると言われるのです。

2. 実によって見分ける

では、私たちは、そのような偽預言者や偽牧師をどのように見分ければよいのでしょうか。イエス様は、16節と20節で、「**あなたがたは彼らを実によって見分けることになります**」と言われます。また17-18節で、「**良い木はみな良い実を結び、悪い木は悪い実を結びます。良い木が悪い実を結ぶことはできず、また、悪い木が良い実を結ぶこともできません**」と言われます。

実を結ぶ前の木は、木の枝に緑の葉っぱがついているだけで、何の木か見分けが付きません。どれも同じに見えます。しかし、実を結んで初めて、それがぶどうの木であるとか、いちじくの木であるとか分かるのです。どんな実を結んだかによって、どんな木であるかが分かるのです。

偽預言者や偽牧師は、一見、普通の牧師に見えるのです。なぜなら彼らは、22節のように、「**主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか**」と言うからです。彼らは、イエス様のことを「主」と呼ぶのです。キリスト教の信仰は、イエス様を誰と呼ぶかにかかっています。イエス様こそ、真の神である「主」と呼ぶことに、キリスト教の信仰の本質があります。イエス様を真の神である「主」と信じるかどうか、キリスト教の信仰で最も大切なことと言えます。しかし、偽預言者や偽牧師は、イエス様を「主」と呼ぶのです。彼らは、確かな信仰、私たちと同じ信仰を持っているように見えるのです。

また彼らは、「主よ、主よ」と熱心に、イエス様を呼ぶのです。彼らは熱心なのです。熱心に祈り、熱心に賛美して、イエス様の名前を何度も呼ぶのです。さらに彼らは、イエス様の名前によって、預言をし、悪霊を追い出し、多くの奇跡を行うのです。彼らは、イエス様の名前を使って、多くの働きをするのです。多くの成果を生むのです。良い説教をし、弱さを抱えた人に仕え、多くの人を救いに導くかもしれません。多くの人々を集める教会を作るかもしれません。それでもイエス様は、偽預言者や偽牧師であり得ると言われるのです。

正しい教理と信仰告白を持ち、祈りや賛美に熱心で、多くの働きと成果をもたらしている、

それでもイエス様は、偽預言者や偽牧師であり得ると言われるのです。私たちには、彼らが多くの良い実を結んでいるように見えます。イエス様は、実によって彼らを見分けろと言われるけれど、彼らは多くの良い実を結んでいるように見えるのです。私たちには、実によっては見分けがつかないように思えるのです。では、イエス様が言われる「実」とは何でしょうか。

3. 天の父のみこころを行う

イエス様は、21 節でこう言われます。「わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです」。

イエス様はここで、イエス様を「主」と呼ぶすべての人が天の御国に入るのではないと言われます。つまり、イエス様に対する正しい教理と信仰告白を持つ者がすべて、天の御国に入るのではないと言われます。また「主よ、主よ」と熱心なすべての人が天の御国に入るでもないと言われます。祈りや賛美に熱心であることが天の御国に入る保証にはならないのです。さらにイエス様は、先ほどの 22 節で、イエス様の名によって預言をし、悪霊を追い出し、多くの奇跡を行った人でも、天の御国に入れるわけではないと言われるのです。つまり御言葉を語り、弱さを抱える人に仕え、多くの教会の働きをしたとしても、天の御国に入る保証にはならないのです。たとえば、毎日聖書を読み、祈り、毎週礼拝に参加し、毎月献金をし、多くの奉仕をして、多くの人に仕え、多くの人に伝道したとしても、天の御国の保証にはならないのです。

では、誰が天の御国に入れるのでしょうか。それは、「天におられる」イエス様の父である神様の「みこころを行う」人です。天の御国は、言葉だけでは入れないのです。もちろん行いだけでも入れません。大切なのは、イエス様を真の神である「主」と信じ、父なる神様のみこころを行うことです。神様と私たちの仲介者であるイエス様を、救い主と信じて、神様に悔い改めて、神様と和解し、神様に従って生きていくことです。神様に悔い改めるといふことは、今までの自己中心の生き方、神様も愛さず隣人も愛さず、ただ自分だけを愛して生きてきた生き方に別れを告げて、神様中心に生きていく決心を固めること、これからは神様を愛し、隣人を愛し、神様のみこころに従っていくとしっかりと決断することです。

偽預言者や偽牧師の内側にあるもの、それは「貪欲」であり、「奪い取る」者でした。彼らは、どんなに正しい教理と信仰告白を持っていても、どんなに祈りや賛美に熱心でも、どんなに多くの働きと成果をもたらしていても、内側には常に「貪欲」があるのです。自分の欲が中心にあるのです。イエス様の栄光ではなく、自分の栄光を求めているのです。イエス様の栄光ではなく、自分が称賛されること、自分が尊敬されること、自分の人生が充実すること、そのような自己実現を求めているのです。言葉では、表向きでは、イエス様の栄光を求めていると語りながら、内側は自己実現を貪欲に求めている、それが偽預言者や偽牧師の姿ではないでしょうか。

「神様のみこころ」とは何でしょうか。イエス様は、マタイ 12：50 でこう言われまし

た。「だれでも天におられるわたしの父のみこころを行うなら、その人こそわたしの兄弟、姉妹、母なのです」。「神様のみこころ」を行う人こそ、神様の子どもとされ、イエス様の家族とされるのです。またイエス様は、マタイ 18：14 でこうも言われました。「この小さい者たちの一人が滅びることは、天におられるあなたがたの父のみこころではありません」。「神様のみこころ」は、小さい者たちの一人を軽んじたりせず、大切にすることです。迷い出た一匹の羊を捜し求めることです。またイエス様は、マタイ 26：42 でこう言われました。「わが父よ。わたしが飲まなければこの杯が過ぎ去らないのであれば、あなたのみこころがなりますように」。イエス様は、「神様のみこころ」を行われました。イエス様にとっての「神様のみこころ」は、私たちの罪の償いのために十字架で死なれることでした。「神様のみこころ」というのは、イエス様の姿に象徴されるように、「十字架を負う」ということではないでしょうか。

イエス様は言われました。「自分の十字架を負ってわたしに従って来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。自分のいのちを得る者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを得るのです」(マタイ 10:38-39)。

偽預言者や偽牧師は、自分の欲のために預言し、牧会や伝道をする者たちです。本当の預言者や牧師は、イエス様の後に従って、自分の十字架を負い、イエス様のために命をかけて従う者ではないでしょうか。偽預言者や偽牧師を見分けるポイントは、その人がイエス様の栄光のために生きているか、それとも自分の栄光のために生きているか、また十字架を負って、命をかけて預言者として牧師として生きているかではないでしょうか。端的に言えば、自分のために生きているか、それとも神様のため、イエス様のために生きているか、ではないでしょうか。

おわりに

イエス様は、前回の説教で、「狭い門から入りなさい」(マタイ 7:13)と言われました。いのちに至る門は狭く、その道も細く、それを見出す者はわずかしかないと言われました。それに対して、滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いと言われました。さらにイエス様は、「主よ、主よ」と言う者がみな、天の御国に入るのはないと言われます。いのちに至る門や道は、「神様のみこころを行う」道です。多くの方は、自分の欲に従って歩みます。イエス様を「主よ、主よ」と言う者の中にも、狭い門から入り、細い道を通って行く人と、大きい門から入り、広い道を通って行く人がいるのです。つまり、イエス様を「主よ、主よ」と言う者の中にも、「神様のみこころを行う」人と、自分の欲に従って行く人がいるのです。そして、「神様のみこころを行う」人は、わずかしかないと言います。

私たちは、イエス様を「主よ、主よ」と言うだけではいけません。大切なのは、イエス様を真の神である「主」と呼び、なおかつ、その信仰に従って生きていくことです。自己中心に生きることに別れを告げて、神様中心に生きていく決断をすることです。また自分の十字架を負って生きていく覚悟を決めることです。それが天の御国への道、命に至る道なのです。

天におられる私たちの父なる神様。

世の終わりには、偽預言者や偽牧師が多く現れるとイエス様は言われました。自分自身が偽牧師にならないように、真実にイエス様の栄光を求め、十字架を負っていくことができますように、守り導いてください。

どうか私たちが、口先ではなく、生き方を変えることができますように。あなたのみこころに従い、あなたを中心に生きていけますように。一人一人が与えられた十字架を見出し、それを喜びをもって背負い、イエス様の御後を歩いていくことができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。